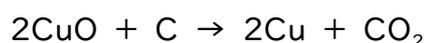


守る

先日、熊谷を訪れた際に、国の有形文化財・妻沼聖天山に立ち寄りました。建造物の銅板葺の屋根が、陽の光に照らされ、控え目に青緑色を表現します。この青緑色は塗料の色ではありません。その正体は銅の表面にできた緑青（ろくしょう）と呼ばれるサビのことで、塩基性炭酸銅 $\text{CuCO}_3 \cdot \text{Cu}(\text{OH})_2$ で示す物質です。銅の表面がこのサビに覆われると、皮膜となり内部を守り腐食を防ぎます。神社仏閣によく見る銅葺の屋根は古の人の経験と知恵で建立物を守るために用いられてきました。

中学2年で酸化物を学んでいます。金属の酸化物を「サビ」と言います。授業では、酸化銅 CuO を用いた実験に取り組みました。化学式の通り、緑青とは異なりますが、酸化銅に炭素まぜて加熱する“酸化銅の還元”を行いました。この方法を使うとサビて黒くなった酸化銅から金属銅を取り戻すことができます。



酸化銅の粉末を使うことが多いので取り出された金属

も粉末であり、「銅だ!」と明確に分かるほど派手な結果はできません。しかし、今回は銅の塊（直径5mmほど）を取り出すことに成功しました。担当者にどのような工夫をしたか、何を守ればうまくいくのか、問うてみたところ、偶然の賜物であることが判明。実験の革命には至りませんでした。

20日に、避難訓練を実施しました。不審者が校内に侵入。教室入口にバリケードを作成する訓練



を行いました。不審者役を教員が担うと、さほど危機感をもたずに生徒たちは訓練を行ってしまいます。そこで、CS委員会・学校支援本部に協力を要請し、格闘家の大黒さんと繋がることができ、不審者役を演じていただきました。迫真の演技に、生徒たちから悲鳴が上がることも。実際の場面では恐怖との闘いですが、冷静に対応することが求められます。大黒さんは

ユーチューブの番組を配信しながら、護身術を世に広める活動をなさっているので、訓練後、代表教員に護身術のいくつかを伝授していただきました。「基本姿勢は、相手を興奮させないよう一歩下がる。顔を隠すよう両手を前に出し、相手を制止する。このことで顔付近を狙われてもよけることができる。どちらにも動けるように脚は前後に開く」ということでした。教員で復習VTRを制作し、市内の学校に共有できたらと考えています。



27日、これも学校支援本部の協力によりSNS教室を開催しました。インターネットの危険について講義を受けました。「ネットに上げたものは消すことができない」という言葉が印象的でした。また、自身がいつ攻撃的になるかわかりません。自分の身は自分で守らねばなりません。



29日、11ブロックのバレーボール選手権大会決勝リーグ男子の部が行われました。激戦の中、四度の勝利を大切に紡ぎ見事優勝!! サービスにミスがなく、ブロックが冴え、相手チームのエースがそれを嫌がったことが勝因であるようです。ブロックは守りの軸。負けないチームを創るには、守りが重要です。報告に来てくれた主将、副主将に、「都大会での目標は?」と訊くと「都ベスト16です。」64チームの争いですから、あと2回勝たねばなりません。予選から通算6度の勝利で目標を達成することができます。



目指せ 六勝!! 圧倒的に清中色を表現します。「どうだ」と言わんばかりに!!